

令和7年度 仙台市 英語教育改善プラン

英語による言語活動の充実を進め、
それらの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 61% ⇒ R7: 60%以上)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加。
R5:45.7%⇒R6:61.0%
- ②言語活動に取り組んだと考える生徒の割合が4つの領域で増加。
聞く R5:83.2%⇒R6:85.8%
読む R5:86.3%⇒R6:87.7%
書く R5:87.6%⇒R6:88.0%
話す (やり取り) R5:68.5%⇒R6:72.6%
話す (発表) R5:86.1%⇒R6:84.5%
(*全国学力・学習状況調査結果)

未だ改善が必要な点

- ①言語活動の充実について、改善の余地がある。
話す (やり取り) R6:65.7%
(*全国学調・学校回答 全国79.3%)
ALTの参画 R5参考値:12.3%
- ②小中連携の状況は、カリキュラム等の設定において改善の余地がある。
小中連携したカリキュラム等の設定 R5参考値:18.5%*全国27.6%

2. 要因分析

①②R5年度全国学調では、「言語活動に取り組んだと考える生徒ほど、英語の正答率が高い傾向が見られた」との調査結果が示された。研修等を通して、生徒の英語力に影響のある「英語による言語活動」や「教師の授業内での英語使用」、「ALTとのチーム・ティーチング」等に対する教員の理解が深まり、英語担当教員のみによる授業やALTとの効果的なチーム・ティーチングにより、言語活動が充実したためと考えられる。

①R6年度全国学調結果より言語活動の割合は増加している一方で、言語活動、特に「話すこと (やり取り)」の指導について改善の余地があると考えられる。本市のALTの参画状況も踏まえ、引き続き教員及びALT対象の研修の充実を図り、授業内外でのALTの積極的な参画を通して、教師の英語使用場面を増やし、更に言語活動の充実を図る必要があると考えられる。
②小中連携推進協議会を実施し、同一中学校区でCAN-DOリストや授業づくりについての情報共有等を行っているが、カリキュラム等の設定という点での連携にまで至っていないのが現状であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①「英語教育に関する研究事業」
・英検IBAの実施 (市内中学校より対象校を抽出) を通して、更なる実態把握と調査結果をもとに英語教育の改善・充実につなげる。
- ②①「中学校外国語科研修」
・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導法について、体験型ワークショップや講義・講習を通して学ぶ。
- ②①②「英語運用向上研修」 ※英語による研修
・小・中学校の教材を活用した言語活動中心の授業体験や模擬授業を通して、小中学校の円滑な接続や連携を推進するとともに、実践的指導力及び英語運用能力の向上を図る。
- ②①②「宮城県外国語指導助手の指導力等向上研修」※英語による研修
・ALTとJTEの効果的なチーム・ティーチングや小中高連携の視点を踏まえた英語による言語活動を通じた授業づくりについて、講義・演習を通して学ぶ。
- ①②①「確かな学力研修委員会 授業力レベルアップ研修」
・仙台市標準学力検査の結果分析により明らかになった課題について、改善のための授業や指導事例について実践発表を行い、指導力の向上を図る。
- ②①②「小学校・中学校外国語小中連携推進協議会」
・中学校区毎のグループワークにおいて、CAN-DOリストの具体的な活用事例を共有するとともに、小中連携の意義について共通理解を深める。
- ①②①②「国際的な視点に立った教育の推進」
・全中学校に配置しているALTの授業内外への参画を通して、学校生活全般でのALTとの交流により、異文化に触れる機会を積極的に構築する。さらに、小・中学校で一貫して学ぶ英語を核とした新教科 (R11年度全校実施) を通して、主体的に学び続ける態度と英語を活用した表現力を育成する。



令和7年度 仙台市 英語教育改善プラン

教員の指導力向上を図り、情報や考えを的確に理解し、それらを活用して適切に表現し伝え合う生徒を、言語活動を通して育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 43.4%、B1以上 14.2% ⇒ R7 : A2以上 55%、B1以上 25%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合について、大幅な増加が見られる。

(R5:40%⇒R6:60%)

②ICTを用いたの発表や話すやり取りの活動について全校で定着が見られ、キーボード入力等で書く活動については全校が確実に取り組んでいる。

(R3~R6:100%)

未だ改善が必要な点

①教師の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合について、普通科で定着が見られるが、専門学科ではいずれも50%を切っている。

(普通科R5:16.7%⇒R6:100%
専門学科R5:0.0%⇒R6:0.0%)

②授業における生徒の言語活動の割合について、特に専門学科で改善の余地がある。

(普通科R5:66.7%⇒R6:100%
専門学科R5:0.0%⇒R6:0.0%)

2. 要因分析

①宮城県と共催の悉皆研修において、授業での教師の英語使用と、言語活動の割合を増やすことをテーマにした講演会やワークショップを実施したことで、言語活動の割合が各学校とも増加したと考えられる。

②公開授業や各種研修でICTを効果的に用いた実践事例が紹介され、普及が進んでいると考えられる。

①②専門学科の英語使用への意識の低下について、授業内での言語活動の少なさや、教師の英語での発話の割合の少なさが要因と考えられる。そのため、普通科と比べて、生徒の外部試験受験者も少なく、教員もCEFRB2レベル相当以上を取得している教師数が少なくっており、それらが意識低下に繋がる複合的要因になっていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②Teacher's Empowerment Project

宮城県教育委員会と共催で、コミュニカティブな授業展開のための指導技術取得を目指し、ワークショップ形式でより効果的な指導・評価方法を学ぶ悉皆の研修会を実施する。現状を踏まえ、教師の英語使用を増やし、言語活動を通して指導することを徹底するための研修内容を吟味し充実を図る。

①②小・中・高合同研修会

自主公開校を指定し、授業改善の中で言語活動の充実を意識した取組として工夫し、その成果を公開する。また、小・中学校の研修会において、高校の授業実践事例紹介や、研究協議を通し、連携に必要な学びの接続の在り方を考える。

①②世界に発信する高校生の育成

中等教育学校においてICT機器を活用した、生徒が実際に英語を使用する体験を通して、適切に自分の考えなどを表現したり伝えあったりする力を育成する。オンライン等による海外生徒との交流活動を充実させ、その取組を市内に波及させるとともに、効果的な指導方法及び評価方法について研究を推進し、教員の指導力の向上を図る。

仙台市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	27.3	50	43.4	55		60		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30	11	20	14.2	25		30		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85	40	55	60	60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	55	60	30	65		65		70		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	75	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	75	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	40	60	28.6	70		80		85			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	10	50	60	55		60		65			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	45.7	60	61	60		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85	69.7	85		85		90		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	88.2	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	92.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	90.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	37	50	46.1	50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	56.9	85		85		90		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80	85.6	90		100		100		100
		公表(%)	70	69.5	80		90		100		100
		達成状況の把握(%)	70	76.3	80		90		100		100